

株式会社 TOKAI ホールディングス
2022 年 3 月期 決算説明会 主な質疑応答要旨
(2022 年 5 月 11 日開催)

Q : LP ガス仕入価格高騰による影響 51 億円とあるが、51 億円全てが利益の押し下げ要因になるわけではなく、一部は価格転嫁されるという理解でよいか。

A : 2021 年度より複数回 LP ガス小売料金の値上げを実施、2022 年度も一部値上げを予定しています。当社は、LP ガス事業の全国展開に取り組んでいる最中であり、価格競争力を維持しながら顧客獲得を推進していく方針です。料金政策につきましては、マーケットの状況を見ながら適宜実施していきます。

Q : LP ガス仕入価格高騰による影響 51 億円はどのような前提で試算されているのか。また、2022 年度業績予想への影響 51 億円と営業利益の減益幅 13 億円はどのような関係にあるのか。

A : LP ガスの仕入価格は CP (contract price) と為替によって決定されますが、足許ではロシアによるウクライナ侵攻と円安を背景に LP ガス仕入価格が高騰しています。

2022 年度の期首時点において、2021 年度の実績に対し、CP が+400 \$/t 以上、為替が+15 円/\$程度と想定しました。あわせて約 60 円/kg の仕入価格上昇となり、この影響として 51 億円を織り込んだことが、営業利益を 13 億円減益と予想した主な要因です。

Q : 今後の株主還元拡充についての考えを教えてください。

A : 当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の 1 つと位置付け、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。

2021 年度の業績について、期初の予想を上回り過去最高を更新しましたので、株主の皆様への感謝の意を込めて期末配当金を 2 円増配しました。

自己株式の取得についても、中期経営計画「IP24」で重要な株主還元施策の 1 つとして位置付けています。既存事業の拡大や M&A など、事業の将来成長とのバランスを鑑みながら引き続き検討していきます。

Q : 大手携帯キャリアによる携帯料金値下げの影響がある中、御社は競争環境の変化を業績予想にどのように織り込んでいるのか。また、現時点において、料金改定などは特に考えていないという認識でよいか。

A : 昨年、一昨年と大手携帯キャリアによる携帯料金の値下げが行われました。

当社は、MVNO として事業を展開しており、昨年 2 月に続き、今年 2 月に新たな料金プランを発表、競争環境の変化に対し十分な対応を図ることができています。

2021 年度は、積極的な顧客獲得に取り組み、顧客の純増を維持しています。

顧客獲得が順調に進捗していますので、現時点において、さらなる料金改定などは予定していません。

以上